

## 2018年3月期中間期の業績について

## ■ 損益の状況

2018年3月期中間連結決算において、資金運用収益は、20,364百万円となりました。役員取引等収益は、前中間連結会計期間比501百万円増加し5,225百万円となりました。その他業務収益は、国債等債券売却益が減少したことを主因として、前中間連結会計期間比2,640百万円減少し2,800百万円となりました。

また、金銭の信託が運用損に転じたことや貸倒引当金戻入益の減少等によるその他経常収益が減少したことにより、経常収益は、前中間連結会計期間比2,924百万円減少し30,349百万円となりました。

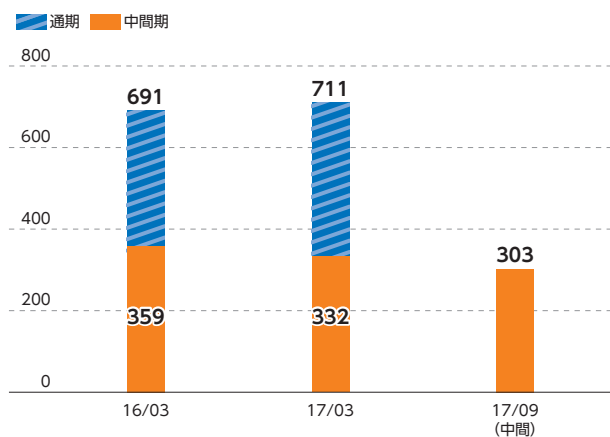
資金調達費用は、3,441百万円となりました。役員取引等費用は、

2,475百万円となりました。その他業務費用は、832百万円となりました。営業経費は、前中間連結会計期間比495百万円減少し17,485百万円となりました。また、株式派生商品費用の増加等によりその他経常費用は484百万円増加し842百万円となりました。これにより経常費用は前中間連結会計期間比149百万円増加し25,076百万円となりました。

上記要因により、経常利益は、前中間連結会計期間比3,073百万円減少し5,272百万円となりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は、前中間連結会計期間比2,117百万円減少し3,772百万円となりました。

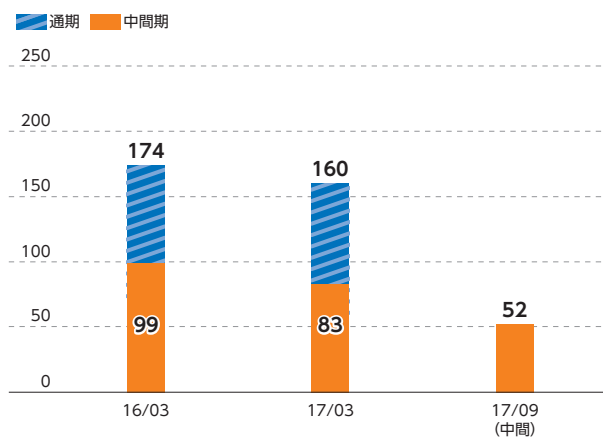
経常収益(連結)

(億円)



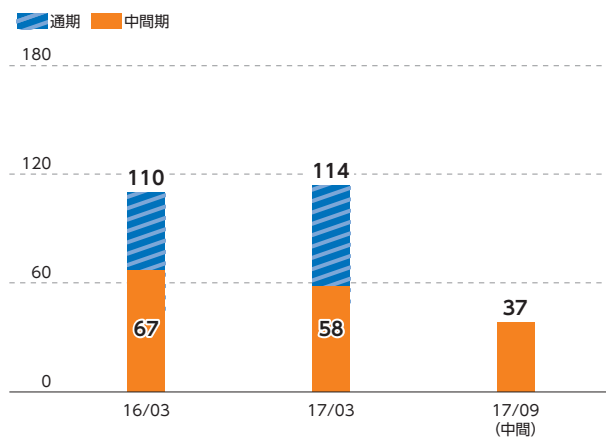
経常利益(連結)

(億円)



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益

(億円)

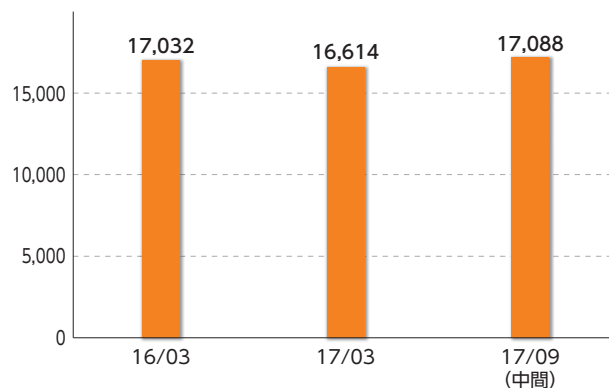


### ■ 財政の状況

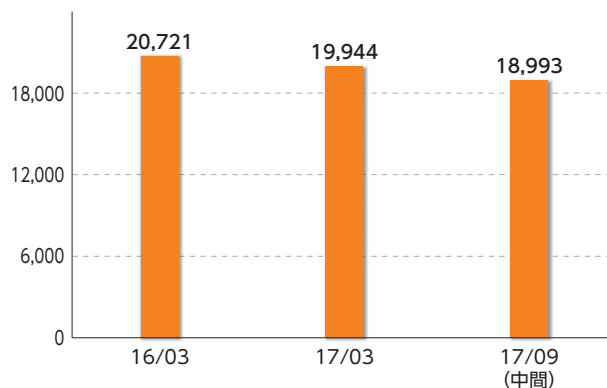
2018年3月期中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末比1,105億円増加し2兆6,411億円となりました。このうち貸出金については、前連結会計年度末比473億円増加し1兆7,088億円となりました。また、有価証券は、前連結会計年度末比

1,214億円増加し4,377億円となりました。負債は、前連結会計年度末比1,065億円増加し2兆5,005億円となりました。このうち預金は、前連結会計年度末比951億円減少し1兆8,993億円となりました。

貸出金残高(連結) (億円)



預金残高(連結) (億円)



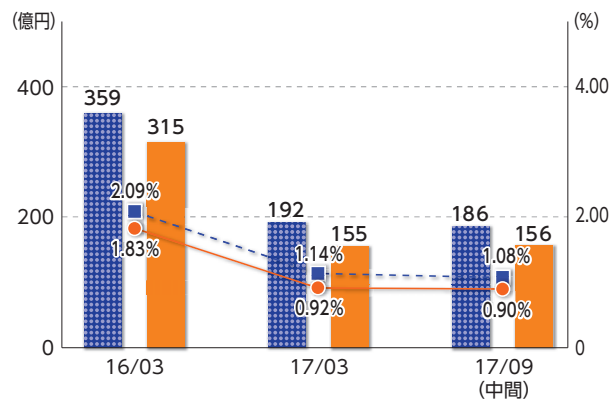
### ■ 不良債権比率

2018年3月期中間連結会計期間末における金融再生法開示債権比率(いわゆる不良債権比率)は、不良債権の回収が進んだ結果、部分直接償却\*を実施しなかった場合では対前連結会計年度末比0.77%改善し1.08%、部分直接償却を行った場合では対前連結会計年度末比0.71%改善し0.90%となりました。

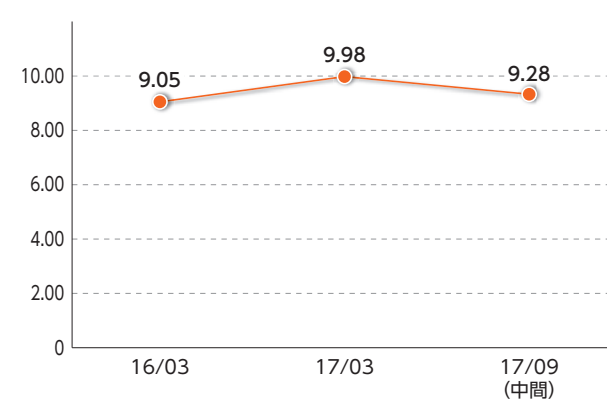
### ■ 自己資本比率

2018年3月期中間連結会計期間末の連結自己資本比率は9.28%となりました。当行ならびに当行グループは、国内業務のみを営む金融機関として、金融庁の告示に基づき4%の自己資本比率を維持することが求められておりますが、その基準を大幅に上回り、健全な水準を維持しています。

不良債権残高・比率(連結) (億円、%)



自己資本比率(国内基準、連結) (%)



部分直接償却\*を実施しなかった場合 部分直接償却\*を実施した場合  
 不良債権比率 不良債権残高 不良債権比率 不良債権残高

\*部分直接償却とは  
 破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、資産の自己査定基準に基づき、債権額から担保の評価額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額する会計処理のことをいいます。